

放送大学鳥取同窓会会報

# 麒麟きりん

## 第2号

編集：編集委員会  
発行日：2014年6月1日  
発行人：西本 弘之  
〒680-0845  
鳥取市富安2-138-4  
放送大学鳥取学習センター内

## 初心を忘れず、「麒麟」の如く！

### 「麒麟」と「騏驎」と、「giraffe」と「kylin」

放送大学鳥取学習センター 所長 若 良 二

放送大学鳥取同窓会の会報は、「麒麟（きりん）」と名付けられています。この会報が「麒麟」と名付けられたのは、「鳥取に因んで・・・」ということ以外に詳しくは知りませんが、「麒麟」に纏わる様々なことが想像できる実に素晴らしい名前ではないでしょうか？

麒麟は中国の神話に登場する伝説上の動物で、聖なる生物、聖獣とされており、キリンラガービールのラベルにその姿を見ることができます。余談ですが、キリンビールのラベルには、鬣と尻尾の三箇所に「キ・リ・ン」の文字が隠されていることはご存知でしょうか？もし、ご存じなければ、一度「キリン（ラガー）ビールのラベル」をよーく調べてみてください。「あった！あった！こんな所に隠れている！！」と「キ・リ・ン」の文字がきっと見つかるはずですよ。

ところで、「麒麟」は架空の生物ですが、中国では、穏やかで優しい性質をした幸せをもたらす動物として、また、全ての動物の「長」として崇められています。また、鳥取県東部（因幡地域）や兵庫県北部（但馬地域）で、無形民俗文化財として広く親しまれている「麒麟獅子」は、この伝説上の聖獣、「麒麟」をモチーフとしたものであり、これらの地域に住む人々にとって、「麒麟」は首の長い「キリン」と重なり、親しみ深い聖獣として受け入れられています。

放送大学鳥取学習センターの卒業生の多くが、因幡と但馬地域を生活の場とする人たちであることを考えれば、これらの地域に共通して親しまれている「麒麟」を会報のネーミングとすることは、とても意義があることと言えます。まさに、地域社会に密着した放送大学鳥取学習センターの同窓会会報に相応しい名前ではないでしょうか？



キリンラガービールのラベル  
(KIRINホームページ) より

日本人である我々が「キリン」と聞けば、先ず、首の長い動物の「キリン」を思い出されることでしょう。漢字では、「キリン」は「麒麟」と書き、英語では「giraffe」と綴ります。しかしながら、「キリン」と読む漢字には、この聖獣である「麒麟」のほか、「麒麟」の「偏」を「馬」に変えた「騏驎」もあります。「騏驎」は、英語では「kylin」と綴り、「キリン」と良く似た読み方をします。しかしながら、「騏驎」は首の長い動物の「キリン」とはまったく異なり、中国や日本で陶器に描かれた架空の「駿馬」を意味しています。一方、「麒麟」は英語で「giraffe」と書き、動物の「キリン」を表しますが、中国語では、発音記号に相当するピンインで「qilin」と書き、「キリン」とは異なる「チーリン」と読みます。

この様に、「キリン」がなぜ、漢字では「麒麟」と表記される様になり、英語では「giraffe」と言う単語が当てられたのか？「麒麟」と「キリン」また、「キリン」と「騏驎」や「kylin」との関係など、考えれば、考えるほど、興味が尽きません。

翻って、放送大学鳥取学習センター同窓会会報、「麒麟」について見れば、会報の第1号は平成24年（2012年）4月1日に発行されましたが、その後の2年間は発行が途絶えています。

「キリン」は首が長ーーく、寿命も長い動物です。「キリン」にあやかって「麒麟」も発行期間が長ーーく、寿命の長い会報になってほしいと願っています。

「麒麟」が付く言葉に「麒麟児（往年の力士の「関脇麒麟児」ではありません）」があります。これは、「幼い頃から才能に優れ将来が期待される子ども」の意味です。会報「麒麟」も2012年の創刊第1号の素晴らしいに一層磨きをかけ、将来、全国の学習センターで発行されている同窓会報に負けない会報として成長してほしいものです。

一方、「騏驎」を用いた諺には、「騏驎も老いては駑馬（どば）に劣る」の例えもあります。若いときは、「駿馬」と持てはやされた「騏驎」であっても、それに甘え、努力を怠れば、年月が経つうちに、足ののろい馬になってしまう、と言う意味です。

会報「麒麟」も創刊当時は、「麒麟児」として持てはやされても年月が経ち、発行回数を重ねると、創刊時の崇高な目的と意欲的な意気込みが時の経過と共に次第に薄れることになるかも知れません。

2012年の創刊時の初心を忘れることなく、常に新たな気持ちで会報と向き合い、末永く、そして常に鳥取学習センターの同窓生の皆様に親しまれる会報を目指して頂きたいと思っております。

通信制の大学である放送大学にとって、同窓生の皆様は、大切な大切な応援団でありパートナーです。特に、鳥取学習センターにとっては、同窓会の会員の皆様の多くは現役の学生であり、学友会の会員にもなって頂いております。

この意味で、同窓会の活動の強化は学友会の発展につながり、ひいては、鳥取学習センターの充実に結びつきます。同窓会活動の活発化の第一歩は、会報「麒麟」の着実な発行にあり、これが鳥取学習センターの支援強化へと繋がって行くものと信じています。

発行当時の初心を忘れることなく、末永く、放送大学鳥取同窓会会報「麒麟（きり

ん)」が発行されることを心より期待すると共に、内容のより一層の充実と放送大学鳥取同窓会の益々のご活躍をお祈り致します。

## 「赤木先生を偲ぶ」

木 幡 鞆 夫

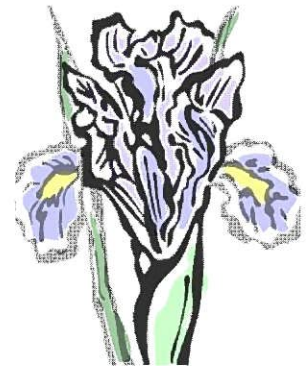
放送大学鳥取同窓会相談役 赤木三郎先生（放送大学鳥取学習センター初代所長）には、かねて、病氣療養中のところ、去る2月5日長逝されました。同窓会としても、ここに改めて、哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りしたいと存じます。

赤木先生には、平成23年4月の設立総会に際し、記念講演をお引き受けいただくなど、当同窓会の設立当初から、格別のご理解とご指導をいただいていたところであり、今後とも、より多くのご指導、ご助言をいただくことをご期待申し上げておりましただけに、まことに残念でなりません。

個人的にも、平成10年4月の入学以来、いろいろとご指導をいただいて参りました。

定年退職後の生きがいのひとつに生涯学習をかね、放送大学に入学はしたものの、今一つなじめず、科目履修生・選科履修生をくり返していたときに、全科履修生への切り替えをすすめていただいたのも赤木先生でした。放送大学での今の自分があるのは、赤木先生のお蔭と改めて感謝申し上げているところでもあります。

赤木先生が亡くなられてから、鳥取市歴史博物館（やまびこ館）を訪れた際は、特別展示室だけでなく、地下の常設展示室にも立ち寄ることにしております。赤木先生のご温顔とお声に接することができる映像の視聴コーナーがあるからです。同コーナーには、前所長西田先生の「鳥取地震」に関する映像もあります。皆様も、ご承知のこととは存じますが、あえて、紹介させていただきました。機会があり、「やまびこ館」をお訪ねの際は、地下展示室にある「鳥取博士、語る」の映像コーナーにもお立ち寄りなさることをお薦めする次第です。



## つれづれに『母』を想う

香 山 ひ と 美

『生きるのは、死んであの世に逝くまでの暇つぶし』だと言ったのは、西方の” ばいばあちゃん” だったのか。昔人生50年、既に私はその年を過ぎているが、漠然と” 明日の命の保証はない” 中、今80年を予定通り生きられる時、我々はその長い人生をどのように過ごすべきだろうかと改めて考える。

私の親友に、40歳で亡くなった自身の母親の年を過ぎた頃から、” これからはオ

マケの人生だから”と言って、韓流スターの追っかけをして、韓国と日本を半々ぐらいで行ったり来たり…やれ『ヨン様と握手会』だの『ウソンとツーショット』だの、楽しそうに話してくれる人がいる。ご主人はかなり地位のある方だが、よく出来た？方で、この奥方を悪く言うどころか、『元気で生き生きと幸せそうにしてくれているから嬉しい』などと言う。では、子供たちはというと、いつの間にか娘は、母よりバージョンアップ状態でやはり追っかけをしていた。このご時世、『それでいいのか』と思われるが、スターに罪はないのだし、深く考えまい…。が、これを我が家に当てはめると、とんでもない話になる。

夫はもとより、『お母さんがそんなふうになったら勘当ものだ』などと、息子は平気で言う。ただ、母親に、『家族以上に興味を持つものが出来るのは納得いかない』という感情のようなのだが、同じ一人の人間ながら、家庭における母親のポジションというのは、実に悩ましいものである。

子を皆大学へ送り出し、『空きの巣症候群』に浸る間もなく、私は放送大学に編入学した。

その頃の私は、まるで学問に対して飢餓状態にあり、仕事をしながら2年間でノルマの1.5倍ほどの単位を取って卒業し、のち大学院選科でしばらく学び、今は、学部二つ目のコースに学士入学している。放送大学に席を置いて常々感じることは、『学ぶ姿勢に年齢は関係ない』ということ、『脳は使うほど活性化し元気になり、脳が元気であれば身体も元気っぽい』ということである。また、どんな分野でも学ぶほど、奥は深くなるばかりだからだろうか、『年配の方で偉ぶっている方はほとんどいない』のに気づかされる。年を重ねるに従って、その人のものの考え方や生き方は顔に出てくると思う。『実るほど頭を垂れる稲穂かな』の諺の如く、謙虚な姿勢で周囲の人々に接し、学問など打ち込むもののある方はよい顔をしている。『年は美しく取りたいものだ』と心に刻まれてくる。

日本が次第にアメリカナイズしてきた影響か、日本の家庭の在り方にもかなり変化が目立ってきた。大家族より核家族が増えてから随分と年が経つ。田舎暮らしが嫌で都会に一人暮らしを求めたり、結婚後も親や配偶者との別居生活を選んだり…。何にしる、一長一短あり、安易に同居を勧めるわけではないが、やはり親の面倒は、子供が看取る覚悟が必要なのではないかと思う。

私の実家で、母は89歳になり、一人暮らしである。姉や兄や…私も泊まりに行き、母の様子を見ている。母には二度ほど『もうこのまま逝ってしまうのでは…』と見つけられた時期があった。しかし、本人曰く、『子供に要らぬ面倒をかけたくない』との一心？で、驚異の復活を遂げ、現在に至っている。脊椎を骨折してからはラジオ体操も絶えて、手のリハビリだと食器洗い、健康維持だと散歩など、細々とながら工夫をして暮らしている。

母は子供を6人産んだが、皆、家を出て行った。そして、父亡き後、母はいずれ一人暮らしとなった…。

幼い頃、子供にとって、母親は百パーセントとも言えるべき存在であり、何かあれば『お母さん、お母さん』と寄ってこられた。が、子供は長じて、反抗期になり、成人しては仕事や恋人や配偶者や…親になればその子供たちへの関心に注がれて、やが



て自分の親の存在を忘れてしまう。それは時の流れの中で『どうしようもないこと』なのだろうが、子を産み育て、やがて子にとって遠くの存在となってゆくしかない母親というものは、なんて切なく、憐れな生き物なのだろうと思う。

疲労が重なる時、私は子供たちの乳幼児期の姿をよく夢で見る。過日は、お風呂に入っている時に、嫁いだ娘の幼い頃の”ひたすら魚釣りゲーム”の場面が突然頭に浮かんで来た。真夜中に一人、ゲラゲラ笑いながら、やがてひどく淋しさが迫って来て…『ああ、きっと私の父母もこの淋しさを何度も味わっていたのだ』と気づいた。

人は、人に育てられながら成長してゆく。その中で愛着を感じる対象は人それぞれかも知れないが、どこにいても『親』は特別な存在だと思う。”日本に生まれ暮らせるだけでも幸せ”だろう。頭と身体を健康をきにしつつ、私は親を、自分に関わる人々を大事に思いながら、母親兼多角的人間として生きてゆきたいものと思っている。



## 現在の私

小谷久美子

また、節目がやってきた。まだまだ先と思っていた還暦が近づき、去年は心の中でくすぶっていた二つの挑戦を試みた。

その一つは、『くもん』を始めたこと。この年齢で入会するには、少々勇気がいりました。というのも、英語を勉強し直すには今しかないと思いつつも、私の力では、どこから手をつけていいのかわからないくらいレベルダウンしていたからです。しかし今は、去年の6月から始めたE-Pencil くもん生も、ある程度の目途がたったようなので、この2月で完了のようです。でも、せっかく土台が出来たので、もう少し英語を自分なりに続けようと思っています。

二つ目は、10年ぶりに（鳥取市観光協会連）として、＜しゃんしゃん傘踊り＞に参加したこと。一番のきっかけは、ダイエットの為でしたが、頭と体がついていかず、4曲の振りの順番を覚えるのがやっとの状態での参加となった。後でビデオを見ると、傘は回っていないし、後悔が残る出来でした。その後、そのまま協会連で月2回の練習を続けていたところ、ある方から、「来年の1月に【東京ドーム公演】があるので、一緒に行こう」との誘いがあり、迷った末、参加することを決意した。【東京ドーム公演】に向けての練習は特別厳しく、人生一番の駄目だしを食らった。途中くじけそうになったり、ストレスで前髪がより薄くなったりもしたが、とりわけ、夜の最終公演では、とどろくバックサウンドに押されながら、皆の心が一つになり、とても貴重な経験をすることが出来ました。感謝です。

そして、もう一つ、心理学に関しては、私の心の友として、私なりのペースで、生ある限り、これからもずっと勉強していきたいと思っています。

福沢諭吉《心訓》の中の最初と最後に、  
一つ、世の中で一番楽しく立派なことは、生涯を貫く仕事を持つ事です。  
一つ、世の中で一番きびしいことは、する仕事のない事です。  
とあります。今の私に何が出来るかわからないけれど、一緒に考え、寄り添うことなら出来るかもしれないと願っているところです。

ソチオリンピックでは、いろいろ辛い状況の中での、選手のあきらめない姿勢が十二分に伝わってきた。感動をありがとう。と同時にその時なぜか、《これからの私は、どこで線引きをするかが、大事になってくるなあ》と思った。自分自身が元気であることが大切ですね。

まずは、健康第一！！

## 放送大学の今昔と私の失敗話

田 中 穰

私が放送大学の存在を知ったのは確か平成元年前後の頃だったと思います。当時の薄れた記憶を思い出しながら蛇足を交えて少しお話しします。千葉の自宅から東京の本社までの通勤には満員の総武線快速電車を利用していました。車中の40分間は所謂通勤地獄そのものでありました。今の私の年齢(82歳)では到底耐えられるものではありません。辛い電車の中での約40分間をどうしたかと言えば体の方向を変えないで、見える範囲の車内広告を幾度となく読み返すのが常でした。他にすることがないかと思われるでしょうが、すし詰めの中では何も出来ないのであります。そんな時よく見かけた広告の中に「試験なしで入れる」「学びたい意志が入学資格」「放送大学で生涯学習」を意味する文句の広告がありました。恥ずかしい話になりますが私には、放送大学については知識も関心も全くなく、多分NHK学園高校乃至は鳥取の尚徳大学のような類の組織であろうと、10年間位はそう思っていました。

ところがある日八重洲の書店に立ち寄り店内に立ち並ぶ書籍をあれこれと物色し、精算のためレジ前の列に並んでいて、ふと目に入ったのは厚めの大封筒入りの放送大学入学案内書でした。中味をちらっと見ると科目名に「相対論」が映りました。取り敢えず家に持ち帰り内容をよく見ますとアインシュタインの相対性理論であることがわかりました。私が若いころ教わった物理ですが殆ど理解できなかった代物で何時かはマスターしたいと思っていたものでした。千葉の学習センターは美浜区の大学本部と同居ですから私の居住する中央区と左程離れてはいません。急いで科目履修生として入学手続きをしました。私の学生番号の始まりは991ですから平成11年1学期の入学を意味しています。ここで私の失敗談と恥さらしをせねば昔を説明した事になりません。相対論テキストのメモには4月4日からラジオ放送で勉強を始めたとありますが、本部への通信指導解答の到着が期限遅れで試験は不可となりました。私の悪癖です。学生資格が全く無かった訳ですね。それ以降は解答受付日には投函するように心掛けております。早めに指導問題を検討しておけば、その後の勉強の上でも又期末試験の問題傾向を予測する上でも役立っていると思います。

なお、実家の事情によりこの年の12月7日に急遽家具一式と共に、大雪の鳥取に帰郷することとなり、1月末には湖山の学習センターで追試験を受けました。が、予想通り不合格でした。私の放送大学はお先真っ黒闇からのスタートでした。なお、当時の放送大学は教員数も少なく大学院制度も無く、メディアも少なく千葉のTVでは12Chで受信可能でしたが鳥取ではスカパーテレビ設備を新設しました。博士課程は本年2学期よりスタートする由です。何れ海外留学制度も設けられるでしょう。皆様にはそれぞれの目的と方策があるでしょう。発展する放送大学を大いに利用して下さい。

以上

## お便り

花 井 満

私の住む街もいま青葉の季節

お元気ですか

暮らしのなか 充実いっぱい学習をお続けでしょうね

私も『現代環境法の諸相』、『都市社会の社会学』などと取り組んでいます

そして日々のリズム作りに

街の端にある標高230mの台地でウォーキングをしております

今日はその報告です

そこは鳥取城の攻防戦で秀吉が本陣を築いたところ

市民の通称は「本陣山」

麓から山上の台地へ遊歩道が作られ

緩やかな曲線の登りは樹林のなか

麓から山頂の台地まで

曲線を描いた3500mの緩やかな登りの道

最初の500mは杉の古木の樹林です

そこに池があり 鯉が棲み 鴨がいて

樹林のなかの登りが始まります

歩くにつれ 距離を知らせる標柱が立ち

主な樹には名札が吊られます

|       |       |                         |
|-------|-------|-------------------------|
| 900m  | サワフタギ | 落葉低木 五月に新枝の先に白色の花 材は細工物 |
| 1200m | ヤマザクラ | 花が葉と一緒に咲く 紫黒色の実をつける     |
| 1200m |       | 最初の小屋 「鶯清水」の水場          |
| 1400m |       | 二つ目の水場 「苔清水」            |
| 1500m |       | 始めて樹間から町が見えました          |
| 1800m | ヌルデ、  | 秋に美しく紅葉、八月に黄白色五弁花       |
| 2100m | ソヨゴ、  | 常緑小高木、六月に白色の小花、樹皮から鳥もち  |
| 2200m |       | みはらし峠                   |
|       |       | 村が見えます 空に向かって突き立ったビルも   |

句碑がありました  
 山は神 登山するひと みな素直 きちこう  
 いつもここに 来て空明けぬ 櫨紅葉 一大  
 2300m 六角展望台 植林家の記念碑があります  
 2300m リョウブ 七八月に白い花 若葉は食用 材を器具に  
 2500m コブシ 三月、小枝の先に花を一個つける  
 2600m イヌシデ 落葉高木、樹皮は鱗状に裂ける、材は薪炭  
 3200m 三つ目の小屋 あと700歩  
 3200m ムラサキシキブ 落葉低木、六月に沢山の花  
 3400m ナワシログミ 材香固く農具の柄  
 アワブキ 落葉高木、燃やすと木口から泡を出す  
 山側の溝へ茶褐色の肥った動物の尻が潜りました  
 3500m あと50m ぽっかり空間が広がります  
 そこに佇むと  
 同じ視線の目の前に巨人のような鳥取城の山頂  
 秀吉と対峙した若き武将の孤独に心が痛みます  
 3532m 山頂の台場から  
 眼下には私の住む町並み  
 砂丘と日本海 遠望に中国山脈  
 どうぞ お元気な日々を お過ごしください  
 それでは又。

\* 植物の説明は「エポカ」から

## 『ちょっと、たばこしょいや！！』

西本弘之

この言葉を知っていますか。

私は、米子市の出身です。鳥取県西部から出雲地方までの地域の方言で、労働や作業の合間に「少しの間、休憩しよう」という呼びかけをこのようにいうのです。実際にたばこを吸うことではなく、お茶を飲み休息を取ることです。この時に抹茶を飲むことも多くありました。

なぜお茶を始めたのですかと時々聞かれるのですが、私の家は農家でしたが、抹茶茶碗、茶筌、茶杓、棗が一式ありました。私は保育園に通う頃に祖父・祖母がたてる抹茶が面白く自分でも真似ごとをしていたのでしょ。

茶道を本格的に始めるきっかけは、17歳の高専3年生の時の夏に旅行で萩市に行きました。萩指月公園に茶室「花江茶亭」があります。ここで抹茶を飲んだのですが、流儀の飲み方を知らなかったので知りたいものだと思ったのが茶道を始めようと考えた最初です。その年の秋に始める人があり、翌年正月に入門しました。茶道の稽古は、40年以上の間続けています。

放送大学では、学位記伝達式の後の「卒業をお祝いする会」の昼食会や秋の「放ちまつり」の折に皆さんに呈茶させていただいています。皆さんに知っておいて欲しい



ことを記します。まずは、お茶を皆さんに飲んで欲しいと思って差し上げています。侘茶を大成した利休の教えの道歌に

「茶の湯とはただ湯をわかし茶を点(た)ててのむばかりなることと知るべし」

この歌は、茶の湯は決して難(むずか)しいものではなく、お湯をわかしてお茶を点(た)て、まず神仏(しんぶつ)に供え、お客様に差しあげ、そして自分もいただくという、日常生活をもとにしていることを教えています。

私は、退職までは技術関係の研究開発の仕事をしていました。そこで茶の湯と技術は近いなと思っっていることが多くありました。生活空間の合理性に規則を見出した知恵には感心することが多々あります。物理・化学現象をよく観察し、さらに人間の心理的な感覚を取り入れて手前作法に仕立てています。この手法は、現代の品質管理の手法に通じていると考えています。今年の卒業研究では、「茶花における美しさの規則性解析に関する研究」をテーマとして研究をしています。茶道として精神性の部分が注目をされていますが、茶の湯を通じて感じた「茶の湯と科学技術」の接点を整理することに興味を持っています。

最後に、禅語に「喫茶去(きつきこ)」という言葉があります。「お茶を一服おあがり」ということで、相手の貴賤、貧富、愛憎に関わりなくいえる心のことです。「たばこしょいや」は、「喫茶去」や利休道歌の「茶の湯とはただ湯をわかし茶を点(た)ててのむばかりなることと知るべし」に通じることばと感じています。おいしく飲んでもらうのが亭主のつとめです。抹茶も好きなように飲めば良いのです。茶道の流儀のお茶が広まったために難しいものと思われることがありますが、抹茶の良さを知って頂きたいものです。

==\*\*==\*\*==\*\*==\*\*==\*\*==\*\*==\*\*==\*\*==\*\*==\*\*==\*\*==

## ○事務局便り

放送大学鳥取同窓会では、学友会及び鳥取学習センターと共催して、下記の活動を行いました。

☆放送大学鳥取学習センター15周年記念事業(平成24年11月28日～12月1日)

とりぎん文化会館に於いて作品展示及び展示会場受付など

☆放送大学鳥取学習センター第1回文化祭(平成24年11月18日)

お茶席(西本)、琴・尺八演奏(香山・田中穰、塩崎)、演舞(濱吉、竹内トヨミ)、司会(林)、絵画(三村、佐々木)、書(木幡、竹内久満、加藤一郎、五百川、佐々木ほか)、エコバック他展示(五百川)、ジオ部活動パネル及び山陰海岸の砂・化石の展示(清水)。

☆放送大学鳥取学習センター「放大まつり(第2回文化祭)」(平成25年11月24日)

お茶席(西本)、学生発表(山田順子、山根國宏)、ジビエ試食(澤田)、バザー(有志)、演舞(濱吉、竹内トヨミ)、司会(林)、絵画(山田、佐々木)、書(木幡、竹内久満、加藤一郎、五百川ほか)、山陰海岸の砂、鳴き砂・打ち上げ貝標本の展示及び朗読(清水)、俳句(五百川)、短歌(吉田博志)。

## ○お祝い

当会会員早川幸子様（H24.3大学院（社会経営科学）修了）には、平成25年秋の叙勲（平成25年11月3日）において瑞宝単光章を受章されました。

まことにおめでとうございます。

## ○お知らせ

鳥取県立博物館（鳥取市東町）で「大麒麟獅子展」が開催されます！

2014年6月7日（土）～7月6日（日）

\*放送大学の学生は、学生証を博物館受付に提示すると入館料が無料になります。

ぜひ、学生証をご活用ください！



鳥取県立博物館HPより

## ○お悔み

去る2月5日、放送大学鳥取学習センター初代所長赤木三郎(82)先生（在任期間：平成9年4月1日～同14年3月31日）が、逝去されました。

赤木先生には、会員の多くの方が深いかかわりを持たれていたと思います。また、当会設立の折には、「伊能忠敬と石井世左衛門」というタイトルで記念講演をしていただきました。赤木先生の温かい笑顔と研究に取り組まれる姿勢がいつも忘れられません。

ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## ○編集後記（麒麟 第2号）

今年の春は天候不順でしたが、放送大学鳥取同窓会会員の皆様はいかがお過ごしでしたでしょうか？

この度、「麒麟第2号」を発行することができました。編集中は春先で、各地の神社では春祭りがあり、皆様のお住まいのところでも「麒麟獅子舞」があったのではないのでしょうか？

麒麟獅子舞は、江戸時代初期に初代鳥取藩主池田光仲が創始したとされ、因幡・但馬地方に伝わる民俗芸能です。子供のころ「麒麟獅子に頭を噛んでもらうと、頭がよくなる、長生きできる」といわれました。今年も噛んでもらわれた方もあると思います。

この獅子舞は、鳥取県東部の鳥取市鹿野町では、獅子舞の獅子が「麒麟」ではなく「神楽」。また、北海道利尻島にも「麒麟獅子」が存在することを、筆者は放送大学の科目で知りました。日本史・民俗史・博物学を紐解くのも楽しいですね。

さて、本誌巻頭では若所長より「麒麟」について詳細に解説していただきました。「麒麟」の名に恥じぬよう、また、会員の皆様の首が実在する「キリン」の首のようにならないよう、事務局では随時皆様からの原稿を募集しています。学びの現在・過去・未来、日頃感じていること、エッセイ、論文、詩など、形式は問いません。当会に対するご意見、ご要望などもお寄せください。

今後とも、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。（M.S）